

患者の不安や苦しみを理解を

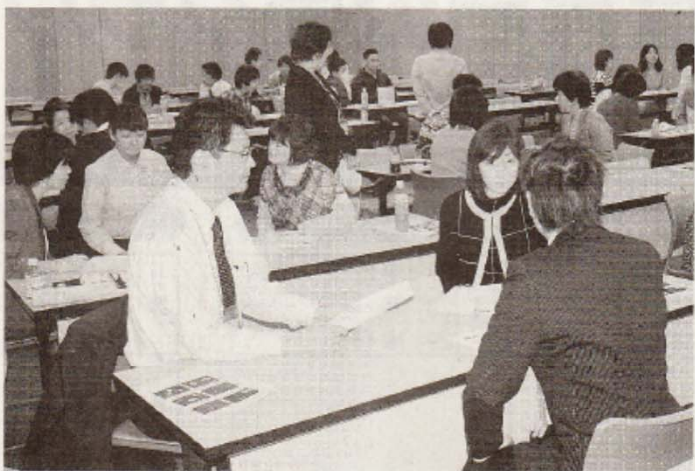
県医療コンフリクトマネジメント研究会 医療トラブル考えるセミナー

県医療コンフリクトマネジメント研究会(森照明代表世話人)の第1回定期セミナーが4月27日、大分市のアイネスであった。医療



講演する県立看護科学大学の平野互准教授

医療メディーエーターの模擬練習で苦情時の対応などについて学ぶ参加者



コンフリクトマネジメントとは、医療者側と患者側の認知や見解の食い違いから生じる医療紛争や日常の苦情・トラブルなどのコンフリクト(衝突、対立)を、当事者同士の対話で予防、調整、解決しようという考え方。今年1月に研究会を立ち上げた。

約80人が参加。県立看護科学大学の平野互准教授が「患者の権利オンフスマンの活動と苦情調査について」と題して講演。「患者の不安や苦しみが怒りとな

っていることを理解して対応していくことが重要」と指摘。事例を示し、「医療機関の認識不足や院内で解決する仕組みがないためにオンフスマンに申し立てにきている人が多い。そうなる前に院内でできることを考えてほしい」と話した。

医療現場で、患者と医療従事者の間で認識の違いなどが発生したときに対話の仲介をする医療メディーエーターの体験実習もあった。「子どもの患者への投薬量を間違えて、保護者が苦情

を訴えている」との設定で、参加者が患者の保護者と医療従事者、メディーエーター役に分かれて模擬練習を実施した。

指導したシニアトレーナーの岐部千鶴・大分大学病院副看護部長は「メディーエーターは当事者がお互いの気持ちを伝えることができ、その仕組みをつくるのが役割。医療現場に対話文化を定着させることが求められる」と述べた。

九州などに多い血液の人T細胞白血病(ATL)原ウイルスを持つ保有者(アー)が全国で100万人とされる。

主に母乳によって子どもが染付きたが、妊婦施や人工乳使用への切りを奏し、母子感染は減りつつ日本産婦人科医会幹事十字産院(東京)の鈴木長は「それでも人の移動った最近では全国への拡散特に首都圏や関西圏のキが増えている」と指摘する。ATLは感染しても潜年前後と長く、発症率も低い、発症すると急し、予後が悪い。

大分合同新聞

平成25年5月11日

朝刊